

1. 学校名

長野県長野市立信里小学校 3・4学年 12名

2. 探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1)活動名 里山の恵み～シナイモツゴから学んだこと～

(2)目 標

- ・信里に生息する生き物との日常のふれあいを通して、自然の豊かさを体感する。
- ・シナイモツゴ学習を通して、シナイモツゴが生息するにはため池が必要であることを知る。
- ・教室の水槽でシナイモツゴを育てることで、身近な存在として関わっていく。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

- | | |
|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 多様性（多種多様な現象が起きていること） | <input type="checkbox"/> 公平性（一人ひとりを大切に） |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性（関わりあっている） | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性（互いに連携・協力すること） |
| <input type="checkbox"/> 有限性（限りがある） | <input type="checkbox"/> 責任制（責任を持って） |
| <input type="checkbox"/> その他（ ） | |

②育成する資質・能力

- | | |
|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 | |

(4) 関連する SDGs



6 安全な水とトイレを世界中に
15 陸の豊かさを守ろう

(5) 探求課題・活動実践の概要（指導計画の概略含む）

- ①シナイモツゴはなぜ絶滅危惧種になったのだろう。
（信州大学の先生や5・6年生に聞く）
 - ・外来種のモツゴの繁殖力が強く東日本に広がる。
 - ・鯉やフナなどと一緒に池にモツゴが放流された。
- ②信里のため池にシナイモツゴがいる理由を調べよう。
 - ・ため池に行き、池の環境を調べる。
 - ・他の生物との関係に気がつく。水草やプランクトン。
 - ・池のどんな場所でシナイモツゴが取れるのか。
- ③ため池の環境よるシナイモツゴの様子を調べよう。
 - ・ため池のある場所によって、大きさや色が違う。
 - ・寄生虫のつきやすい池があるのは、なぜだろう。
- ④ シナイモツゴを飼って育てよう。
 - ・ため池の水や水草をとってきて環境を整えよう。
 - ・水質の管理やえさのあげ方を考えよう。
 - ・信里にシナイモツゴが住み続けるために自分たちができることを考えよう。



3. 効果・反応・所感

3・4年生の子どもたちは里山の生き物に興味を持っている。そして絶滅危惧種のシナイモツゴが信里の池にいることは、貴重な信里の財産であることを実感している。自分たちの身近な生き物について考えることで、里山の森、ため池の保全の大切さを学んでいる。また、本年度は池に集まる生き物たちの関係にまで関心を持てた。そして信里には多くのため池や森があり、この環境を守るために自分ができることは何だろうと次の一步を踏み出そうとしている。これらの体験を通して学校目標『信里を語れる子ども』の素地を作る活動ができている。

4. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

【資源】 信里小学校周辺の田畑・ため池・森林

【協力者】 トンボ学習 小林友広先生（千曲市在住）
シナイモツゴ学習 中野繭先生（信州大学）